令和４年度　部局経営目標（達成状況）

年度	令和４年度	作成日	令和5年3月31日
部局名	湯原温泉病院	部局長名	中谷由紀男

（１）部局の役割・使命（ﾐｯｼｮﾝ）・経営方針

【№3:すべての人に健康と福祉を】

１．持続可能な病院経営

組織内で部科及び職種間の連携を強化し、職員全員参加で病院改革に取組み、持続可能な病院経営を目指します。

２．過疎地域の医療の確保

「へき地医療拠点病院」として地域の医療を守りつつ、一次、二次救急の受け入れ救急告示病院としての役割を担います。

３．地域包括医療体制の維持

病院目標を『地域を支え、地域に支えられる病院を目指す』に設定し、地域住民が健康で安心して暮らせるよう、地域ニーズに応える地域包括医療の提供を目指します。

４．地域包括ケア病床等の連携体制の維持・強化

市内外及び近県医療機関及びサービス事業者との病診連携を強化します。

５．利用者確保に向けた広報活動の強化

豊かで良質な温泉と自然環境に恵まれた病院の特性を市内外に広報し、特性を活かす治療・リハビリなどの医療から健康増進まで幅広い利用者の確保に努めます。

６．新型コロナウイルス感染症患者受入体制の維持

新型コロナウイルス感染症患者に対する医療提供体制を維持及びワクチン接種体制の確保とともに、関係機関と連携を積極的に行います。

（２）事業成果目標	指標名及び目標値			
1-①　効率的な病院経営（病床機能及び病床数の見直し）	指標：医業収支率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
・医療制度改革の動向や今後の地域人口の減少に対応するため、病床機能や病床数などの見直しを行い、地域の医療需要を考慮した効率的な経営を目指します。 ○医業収支率 ＊平成30年度　84.2% ＊令和元年度　83.3% ＊令和２年度　80.5% 3年間の平均値　82.7%	85%	決算後	決算後	コロナの影響の分析と今後の収入確保に向けて戦略づくりが必要となる。
2-①　医療提供体制維持のための医師確保	指標:病院採用医師の確保			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
・常勤医師の確保とともに、病院経営安定のため病院独自採用医師の確保、定着を目指します。 ・将来展望を踏まえて看護師、福祉職等の採用を計画的に行います。 ＊令和４年度医師体制 ・常勤医師5名 病院独自採用医師2名（院長・副院長） 県派遣（自治医大卒）２名 岡大地域枠1名	1名	０名	自院採用の医師確保が今後の経営に大きく影響することから、医師採用が、急務となっている。手だての整理から必要となる。	新たな募集手法と情報発信の充実が必要。

3-①　地域包括医療（入院患者数の維持） ・地域包括ケア病棟で症状が安定した患者さんに対して、在宅や介護施設で安心して生活できるようにするための退院支援やリハビリを中心に行い、かつ在宅医療を行っている患者さんに対して容態急変時の受入及びレスパイト入院（在宅療養患者の介護者の休息のための一時入院）を受け入れることにより、入院患者数の維持を目指します。	指標:入院患者数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	22,000人	20,360人	現在のところの目標達成率は７割。残り３か月では達成が困難な状況。コロナの関係で看護師の休暇もあり人員確保が困難な１年となった。	周辺人口が急速に減少する中、県外に流出している患者獲得へ行動計画づくりと人材確保と育成が必要。
4-①　地域包括ケア病棟の維持 ・地域包括ケア病棟の病床機能を維持し、急性期医療機能を保持しながら早期在宅復帰に向けた適切なリハビリを行います。また、地域の介護施設並びに居住系サービス事業者と連携を密にし効果的な利用を促進します。 ＜地域包括ケア病棟50床の内、14床を使いコロナ感染症患者向けに4床を確保しているため、実質病床は36床となっている＞	指標:稼働率			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	85%	82.3%	人員確保が厳しい中、概ね目標に近い状況にすることができた。	ベットコントロールの意識を医師、看護師が共有し、経営の健全化による持続可能な病院にするため、意識改革が必要となる。
5-①　広報活動の推進 ・地域に寄り添い地域包括医療を担うべく、医療・介護・福祉に関連して何でも相談できる身近な医療機関として認知され選択されるよう真庭圏域への広報活動を行い、外来患者数の確保を目指します。	指標：外来患者数　　（①外来②通リハ③訪看）			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	①27,000人 ②4,000人 ③3,000人	①34,834人 ②3,140人 ③2,883人	①コロナ関係の外来が多く数値目標は達成。②利用対象者の減少とコロナに翻弄された年であった。③需要が伸び目標に近い利用者となった。	①コロナの位置づけ見直し後の外来患者の集患対策が必要。②高齢化と自宅での療養需要がさらに増すことから人員の確保が必要となる。
5-②　人間ドック受診者の増加 ・広報、営業活動をより積極的に行い、閑散期の冬季間などのドック受診者の増加を図り、市民の健康管理に当院の医療資源を有効活用します。 ○人間ドック実績（内、ゆけむりドック） ＊令和３年度・・754人（12人） ＊令和 2年度・・753人（ 50人） ＊令和元年度・・783人（108人） ＊平成30年度・・769人（109人）	指標：ドック受診者数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	750人	770人	営業とリピーターの獲得で目標は達成見込み。	技術職の確保・育成が課題となっている。
6-①　新型コロナウイルス感染症患者の受入 ・医療従事者を確保し、通常診療を行いながら、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れ、地域医療の機能維持に努めます。	指標:コロナ病床確保			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	4床	４床	制度変更により、県のが指定するフェーズに基づき確保病床数が変化している。	感染症法上の類型が見直されることから、令和５年度目標からは削除

6-②　新型コロナウイルス感染症ワクチン接種体制の確保 ・新型コロナウイルス感染症の予防効果のあるワクチン接種を、平日１日当たり60回分の接種を目標にワクチン接種体制を確保します。	指標：ワクチン接種回数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	週300回	週92回	感染の状況や社会情勢により接種者数が変動した。	感染症法上の類型が見直されることから、令和５年度目標からは削除